

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874001619		
法人名	医療法人社団 だいたうクリニック		
事業所名	グループホーム 花みずき (れんげ)		
所在地	兵庫県姫路市豊富町豊富915-2		
自己評価作成日	平成29年12月4日	評価結果市町村受理日	平成30年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成29年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・法人の理事長が主治医で24時間連絡が取れ、指示を受ける体制ができています。 ・週に1回看護師が勤務・薬剤師も来訪しており、健康管理を把握している。 ・田畑に囲まれ、環境の良いところに建てられており、自然に触れる事ができる。 ・地域交流が充実しており、近隣住民が運営推進委員として常に7~8名参加して下さっている。又、中学校の生徒が来訪したり、消防署・消防団と連携し避難訓練を行ったりと協力して頂いている。 ・利用者主体のケアを意識し支援している。
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設後16年を経て、事業所の建物は地域のランドマークになった感がある。祭りの太鼓を寄付したり、利用者全員が自治会の会員になったりしながら、地域との関係性を築いてきた。開放感に富んだ事業所の雰囲気によって、近隣の住民が農作物を届けてくれ、家族からも「訪問しやすい」と好評である。利用者の重度化が進んでいる中、全国規模の書道展に毎年全員が応募し、特賞や奨励賞を獲得している。事業所の壁面を飾っている作品の中には、「女の一生は愛情の歴史である」など、利用者の想いに触れるとともにその達筆に感心する。事業所の理念の一つに「チームケア」を謳っている如く、ベテラン職員を中心とした質の高いケアが実現している。母体の医療法人から、内科のみならず精神科医の定期的な往診があり、手厚い医療連携が利用者や家族そして職員に安心と安全をもたらしている。職員は今後とも研鑽を積み、更なる高みを目指されるよう、期待したい。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念として5項目を掲示し、職員一人ひとりが理念に基づき支援している。	ホールに掲示した理念を念頭に、職員は日々チームケアで臨んでいる。職員は、利用者との馴染みの関係の中で、「一人一人に合わせた楽しみ作り」をしながら、利用者の「今」を大切にする事を目標にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	トライやるウィークやESS活動等を通して、中学生との交流があり、秋祭りや猿回し等の行事を通して地域の方にも参加して頂き、交流を深めている。	事業所開設以来継続して、地域と関係性を築くことに努力している。来訪した中学生が英語劇を披露したり、地区の秋祭りの山車が玄関前の広場までやってくる。いずれも、利用者の楽しみの一つとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会に参加して頂き、話をしている。避難訓練や行事にも参加して頂き、開かれた事業所を目指している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の様子や取り組みを報告し話し合っている。そこでの意見を参考に、サービス向上に努めている。議事録を家族や市役所に報告している。	概ね隔月に開催し、利用者や数組の家族、地域代表、地域包括などが出席している。理事長が出席した際には、高齢社会や認知症について話すこともある。議事録は家族と市の担当部署に郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員に運営推進委員会に参加して頂いている。市へは議事録を送付している。	市の担当部署とは折に触れて電話で連絡をとっている。今後は、年度初めの推進会議の議事録を持参して、関係性を密にしたいと管理者は考えている。地域のグループホーム連絡会が年に3回開催され、医療との連携などの課題について情報交換や研修を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の生活において、身体拘束をしないよう職員間で話し合い、申し送り、確認を取り合いながら、支援を行っている。	玄関とユニットの出入り口とも、夜間を除いて開錠している。安全の為に車椅子に簡易ベルトを着けている利用者がある。家族からの継続要望が強いが、外せる時間帯を検討したいと管理者は考えている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で学び、虐待防止に努めている。また、日々の生活において、職員一人ひとりが利用者の様子を観察し、虐待を見過ごすことがないように注意している。	身体拘束排除と共に、毎年研修をしている。心理的虐待に相当するような乱暴な言葉遣いや、スピーチロックに特に注意を払っている。気付く都度、管理者や主任が職員に直接注意したり、職員の全体会議の中で注意を喚起している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学ぶ機会がある。利用者に成年後見制度を利用されている方もいる。	成年後見制度の活用を入居後に始めた利用者が複数ある。利用者の状況に応じ、必要であれば制度の説明をしており、簡単な資料を準備している。外部研修に参加した職員がいるが、伝達研修は行っていない。	外部研修に参加した後、伝達研修をすることを規則付けして、職員の知識レベルを上げる工夫をされたらどうであろうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者との話し合いにより、十分に説明を行っている。十分に説明を行っている。不安や疑問点があれば、その都度説明し理解して頂くようにしている。	利用者、家族と面談し、入居前の見学を薦めている。発病した時や重度化した場合でも入居が継続できるかなどの退居要件に関する質問が多い。医療面のケアに関して事業所として出来る範囲を説明して、納得を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、意見や要望を聴くようにしている。家族から意見や要望があった時は管理者と職員で話し合い、改善に努めている。また、意見箱も設置している。	家族会を年に2回開催しており、毎回約半数の家族が参加する。全体の集まりが終わってから、個別に面談する時間を設けて個々の要望を聴いている。医師である理事長が、利用者の心身の状態について丁寧に説明している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	原則年2回の面接や、日々意見の交換や提案できる機会がある。	毎月開催する全体会議とユニット会議の中で、意見を聴く機会がある。介護記録と観察記録への記載方法を検討したり、リクライニングチェアを購入して利用者への食事介助の方法を改善するなど、職員の意見を受け入れ運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意見や希望等を言える職場環境が整っており、職員の勤務態度や努力・実績は正しく評価されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の勉強会で、外部研修に参加した職員が研修の報告を行い、情報を共有している。また、講師を招くこともある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者がグループホーム連絡会に参加し、他のグループホームとの交流を深め、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人・家族と面接を行い、本人の状況・身体面・精神面等、困っていることがないか確認している。また、本人・家族の思いを聴くよう、心がけている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面接の時に、家族の思や困っていることを細かく聴き取り、状況の把握に努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの様子を実際に見て頂き、他の利用者と過ごす時間を作り、生活の場として過ごせるか、見て頂く。入所が不可能な場合は、他のサービスの利用も薦めるようにしている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、家事全般を職員と一緒にやり、昔ながらの風習や得意なこと等教えてもらっている。		
19			○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月のお手紙で日常の様子や健康面の報告を行い、相談・協力をして頂いている。また、状態に変化があれば、すぐに連絡し、協力して頂いている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも気軽に面会して頂けるように明るい雰囲気づくりを心がけている。また家族と一緒にいつでも外出できるようにしている。	毎日来訪する家族もあり、アンケートでは約90%の家族が気楽に訪ねて行きやすい雰囲気であると答えている。面会、外出、外泊は自由であり、友人、親戚、自宅の近隣の方等がよく訪ねて来ている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲良く支え合い、協力し、楽しく生活できるように職員が間に入り、支援している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も電話や訪問して頂き、状況を報告してもらい、相談を受けたりする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の思いや希望を聞き出し、把握に努めている。困難な場合は家族に相談する等して思いや希望を推察し把握するように心がけている。	意思疎通が難しい利用者がある。入居当時に把握していた嗜好や想いを振り返ったり、長年にわたる触れ合いの中で知った利用者の意向がわかる表現方法を、職員間で共有して対応している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、家族にバックグラウンドシートを記入して頂き、情報収集したり日々の会話の中から、情報を聞き出し把握するよう心がけている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、言動や身体状況等を観察し、把握するよう心がけている。また、連絡帳活用し、職員一人ひとりが把握できるようになっている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い、利用者の状態変化等の確認をし話し合っている。本人の思いややりたいこと、家族の希望を聴き、身体状況に応じた介護計画を作成している。	介護計画の各ニーズを念頭に、日々の観察記録を作成している。毎月の全体会議の中でモニタリングしている。半年ごとに担当職員がアセスメントして介護計画案を作成し、最終的に計画作成担当者がまとめている。利用者毎のモニタリングシートを作っていない。	介護計画の各ニーズごとにモニタリングが出来る書式を検討されたらどうであろうか。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で、言動・精神面・健康面等を細かく記録し、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しを行っている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の思いを聞きながら、状況に応じて施設や職員の考えを伝え、相談しながら柔軟な支援ができるように心がけている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年1回消防署立ち合いのもと、消防団や近隣の方々にも協力して頂き、避難訓練を行っている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の理事長がかかりつけ医であるため、週1回の往診がある。また法人の理事が精神科医として月1回の往診に来ている。緊急時には24時間、対応ができています。	母体医療法人による内科及び精神科による定期的な往診体制が確保されている。利用者を尊重した丁寧なケアに努め、日常的に利用者の状態把握に関して共有を図っている。他科受診が必要な場合は、家族が付添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内のクリニックより週1回看護師の訪問があり、健康チェックや相談・指導を受けている。緊急時には連絡できる体制が整っている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のケースワーカー等と連絡を密に取り、情報を交換している。また、家族にも細かく説明し、不安のないよう対応している。	骨折等の入院があった場合は、他医療機関との速やかな連携により、安心して治療できる体制が整備されている。利用者の心身状態により、できるだけ早期退院ができるよう母体医療法人と職員、家族との情報共有に努め、事業所として安心できる環境を用意している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期には家族・主治医・管理者・職員で話し合いを重ねながら方針を共有し、家族の不安を取り除き、支援できるようにしている。	契約時に事業所の方針を説明し、利用者、家族の意向について聴いている。入院等重度化にも、その都度意向を確認するなど家族の気持ちに寄り添った関わりを心がけている。終末期には、家族が安心して利用者に寄り添えるよう声掛けや環境への配慮に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルがあり、いつでも対応できるようにしている。年1回、消防署による救命救急の訓練・指導を受けている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年8回、避難訓練を行っている。日中・夜間想定・地震想定と細かく分けて、全職員が把握できるよう努めている。年1回、消防署・消防団・近隣の方にも参加して頂き、協力体制を整えている。	毎月、避難訓練以外に各機器の点検や非常食のチェック、各居室の環境整備等を実施している。今年は、3月と9月に地震災害時の避難訓練を利用者も一緒に行ったが、3月にも再度実施し、職員の危機管理意識の向上を図る予定である。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、優しく丁寧にわかりやすい言葉かけができるように心がけている。	高齢者への尊敬の念を持った姿勢で接している。利用者のこれまでの様子や想いを把握したうえで動きや表情から察するなど、意向を大事にしている。職員は、利用者の日々の状態を毎日の申し送り等で確認し、共有に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で利用者の細かい言動や様子を観察し、さりげない会話の中から希望を聞き出すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で利用者一人ひとりの好きなこと、得意なこと、できること等を把握し、その人らしい生活ができるように働きかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や洋服選び等、自由にして頂いている。困難な方には職員がその人らしい身だしなみができるよう支援している。定期的に訪問美容師を利用している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者がしたいことやできることを職員と一緒に行うようにしている。日々の会話の中で、食べたい物や好みの物を聞き出し、献立に入れるようにしている。	普段の家庭料理を中心に、利用者の好みや季節に応じた献立を職員の手作りで提供している。高齢者が食べやすい味付け、調理法、見た目を工夫し、職員も一緒におしゃべりしたり、テレビをみながら楽しく食事をしている。誕生日には特別メニューがあり、みんなが楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調に応じて、量や切り方、ミキサー食にする等、工夫している。栄養補助食品やポカリゼリー等も利用し、水分補強を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じて口腔ケアを行っている。できる人は声をかけ、見守り、困難な人は介助している。義歯は夜間はポリデント消毒をしている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を把握し、介助の必要な方は定期的にトイレの声かけをし、誘導している。ポータブルトイレ使用の方は訪室時に確認するようにしている。	自分では行くのが難しい利用者には、職員がさりげなくトイレに誘導している。失敗を減らすために早めに声かけや表情やしぐさから察知するようにしている。夜間も、利用者個々のパターンを踏まえて声かけをし、又、安心のためにポータブルトイレを置いている人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分補給を行い、野菜や果物を多く摂れるような食事にするよう工夫している。散歩や体操を日課にし、運動している。排泄チェック表を利用し、把握している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者全員が平等に入れるように考慮している。できることはしてもらい、一人ひとりに応じた介助を行っている。	概ね、週2～3回を目安にしている。個々に応じた時間や習慣を優先し、ゆっくりくつろいでもらっている。利用者の体調管理には留意し、清拭やシャワー浴の時もある。職員とおしゃべりを楽しみにしている人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具やパジャマを清潔にし、室温にも気を配るように心がけている。夜間よく休めるように散歩や体操を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をすぐに確認できるようにしている。週1回、薬剤師の訪問時に説明を受け、理解している。服薬管理表を利用し、誤薬のないよう確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の掃除や食後の片付け等、職員と一緒にいき、役割を持って頂いている。ぬり絵・歌・編み物等一人ひとりが好きなことをできるよう配慮している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事を通じて季節を感じてもらえるよう外出している。家族と一緒に外出される利用者もいる。また、家族に外出を提案する時もある。	季節を問わず、外気に触れる機会を設けている。事業所敷地内の花壇の花を摘んだり野菜を採ったり、近隣の農道を散歩する事が日課となっている。今年の遠足は、セントラルパークに行っている。大変好評であり、次回も検討している。希望により季節の花を見に行ったり、気分転換のドライブにも行っている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	個別にお金を預かり、職員が管理し家族の来所時に領収書を渡し報告している。お金を持つことで安心する利用者は家族の了承を得て、手元に置くようにしている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、利用している。居室に電話を置いている利用者は、定期的に家族と電話している。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	棚や壁に利用者の作品を展示したり、季節に応じた飾り付けをしている。カーテンや窓の開閉・エアコン・冬は床暖房を利用し、温度調節・喚起を行い、快適に過ごせるよう心がけている。	広いリビングは窓が多く、観葉植物も置かれ明るい。複数のテーブル、ソファが置かれ、利用者は好きな所で過ごしている。季節感のあるさりげない飾りつけにとどめ、落ち着いた雰囲気となっている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に新聞や雑誌を読んだり、テレビを観たりできるように、ソファや机の位置に配慮している。また、廊下のベンチでも自由に過ごせるようにしている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は使い慣れた家具やテレビ等を置いて頂き、家族の写真や本人の作品を飾ったりと、居心地よく過ごせるよう配慮している。	クローゼット、洗面台、ベッドが準備され、日々の消耗品や衣類等の整理がしやすい。テレビや机、小型の応接セット、使いこまれた整理棚や小物入れ等、利用者が大事にしていた道具が身近に置かれている。ベッド周りに置かれている本や雑誌、ノートなどからも、その人の暮らしぶりがうかがえる。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入口に本人の写真を飾り、表札を設置し分かりやすいようにしている。トイレにも表札を作り、自分で行動できるようにしている。		